

◆**基調講演「日本の火山活動はどうなっている？」**

地下のマグマまたは固形物が地表に接近または噴出する現象を「噴火」といいます。6月29日から30日にかけて、箱根でも噴火の現象が起きました。

富士山との関係が言われますが、箱根山のマグマ噴火は3千年前の冠ヶ岳以降はなく、富士山は8世紀以降、最低10回のマグマ噴火が起きていますが、その間、箱根山の噴火は13世紀の水蒸気噴火のみであることから、この二つは連動していないことが分かります。

日本には110の活火山（1万年以内に噴火、または今も噴気活動のある火山）があり、うち47の火山を「監視観測火山」として監視しています。これは、百年以内に何らかの動きのあった火山ですが、噴火が切迫しているわけはありません。

御嶽山を例にみると、2014年の噴火では、一週間前に地震が発生していたものの、噴火の明確な前兆は噴火の7分前でした。一方、2007年の噴火の際は、数か月前から山体膨張

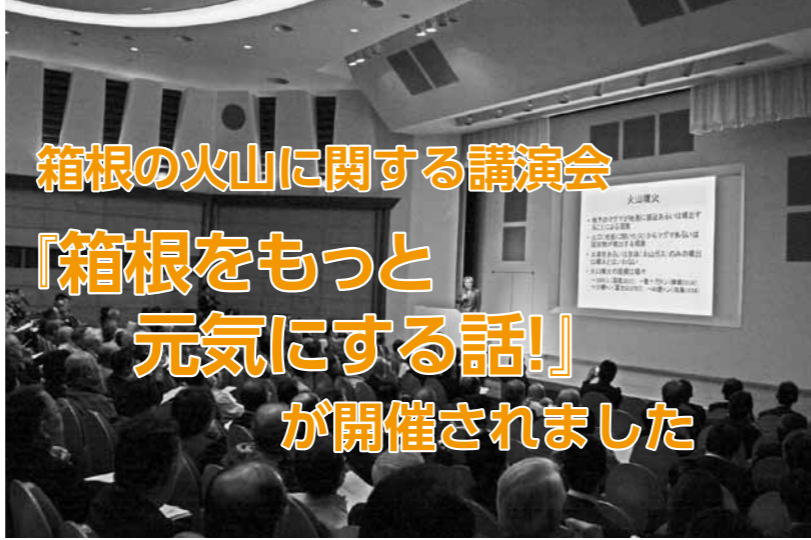
が見られていました。また、1979年は朝噴火し昼頃がマックスでしたが、今回は噴火の最初にマックスでした。このように、噴火といってもその前兆や規模などは、毎回同じではない（規則的ではない）のです。そして、噴火の予知については、桜島のように頻繁に噴火を繰り返す火山に対し、百年以上噴火していない火山などの噴火については、その予知は難しく、特に長期的な予知は困難です。

さて、現在の地震や火山の活動は、大地震の時代と言われた9世紀の活動によく似ており、今後数十年は火山活動が活発化すると思われる。

自分の身（命）を守るためにも、火山のこと、噴火のことをぜひ知ってください。

◎**安心して生活するためには**

- ・噴火したらどんなものが降ってくるのかなどの火山現象を日頃から学んでおく
- ・静穏なうちに山に入って平常時の様子を知っておき、何か異常を感じたら関係機関に連絡を入れることを心掛ける
- ◎**山頂などで突然噴火に見舞われたら**
- ・最大傾斜とは逆の方向に、とにかく逃げる（身を隠す）
- ・収まってから下山する



箱根の火山に関する講演会 「箱根をもっと 元気にする話！」 が開催されました

箱根の火山に関する講演会「箱根をもっと元気にする話！」が11月12日、県立生命の星・地球博物館で開催されました。

気象庁の火山噴火予知連絡会会長の藤井敏嗣さん（東京大学名誉教授）による基調講演の他、県温泉地学研究所長の里村幹夫さんから箱根山の活動に関する状況報告が、県道路管理課長の荒井俊晴さんから「箱根見守り隊」の結成および活動報告がそれぞれ行われ、火山を知りどう備えていくか、また箱根山の現状を再確認するよい機会となりました。

当日の概要は次のとおりです。

【箱根山の活動】（11月12日現在）

4月上旬から山体が膨張し始め、26日に群発地震が始まると、5月に入り群発地震が活発化、蒸気井も暴噴状態となり、5月6日、噴火警戒レベルが2に引き上げられました。その後収まりかけていた地震は6月29日の朝から活発になり、昼に降灰の報告、同日および翌日に入山し（固形物）を発見したため「噴火した」との判断になり、レベルが3に引き上げられました。

7・8月と地震活動、地殻変動ともに鎮静化を見せ、9月11日、レベルが2に引き下げられ、現在は、地震活動はほぼ収まり、地殻変動も収まったものの、新

たにできた火口と噴気口からの有毒ガスを含んだ噴気活動が、依然として活発であることから、立ち入りが制限されています。

【箱根見守り隊】

県からの委託を受け、6月3日、箱根山で水蒸気噴火が起きた際に、避難指示区域外で交通規制や火山灰の除去作業に当たる「箱根見守り隊」が、湘南建設業協会箱根地区の協会員らにより結成されました。

同日以降の交通規制はもちろん、9月の一部区間の規制解除時には路面清掃や除草作業にもあたった他、10月には降灰の対応や重機による作業の問題点の検証などの除灰訓練も行う等、今後の備えにも努めています。

噴火警戒レベルが「1」 に引き下げられました

大涌谷周辺（箱根山）の噴火警戒レベルが、11月20日14時に「1」（活火山であることに留意）に引き下げられました。

しかし、大涌谷の新たな火口周辺から火山性ガスが噴出しているため、引き続き大涌谷への立ち入りはできません。

今後、火山性ガスの測定結果を見ながら、各関係機関やガス対策の専門家と共に、安全対策を図り、規制解除を目指していきます。

照会先 総務防災課 ☎85-9651



愛する故郷・箱根を励ましていきます！ 決意を胸に八代亜紀さんが 「はこね親善大使」 に就任

町の魅力を広く国内外に発信する「はこね親善大使」を新設し、初代大使に八代亜紀さんが就任することになりました。その委嘱式が、11月13日に町役場分庁舎4階の会議室で行われ、山口町長から八代さんに委嘱状が交付されました。

町では、平成28年度に町政施行60周年を迎えるに当たり、今年度の事業として「観光大使」の創設を目指してきました。

そうした中、今回の大涌谷周辺の火山活動を受け、町と八代さんの事務所との間で話し合いを重ねてきましたが、八代さんから事務所を通じ「強羅にアトリエを20年以上構えている中で、私も箱根のためにお手伝いできることがあれば」とのお話を受け、町からお願ひし、親善大使を快く引き受けていただくことになりました。

引き続き行われた記者会見で八代さんは「箱根は第2の故郷。

特に絵を描くプロとしての出発点です。私にとって歌は命であり、それを支える精神が絵。なくてはならない存在です。今回（火山活動で）箱根が苦しい状況になり、祈る思いでいました。厳しい現実ですが、素敵な町を取り戻すことを応援したい。絶対がんばるぞ！という思いです。みんな協力して、いい町を持続させていきたい」と、就任に対する意気込みを語っていました。

大涌谷の噴火直後は箱根に來られず「早く元に戻ってほしい」と心配していました」と当時を振り返り、そのときの心配の度合いを「故郷を思う気持ちだった」と表現していました。

町民の皆さんには「心配だと思いません。だけど、信じましょう、自分たちの町を。大好きな箱根を。大涌谷が、大丈夫だと言っている。だから、大丈夫。信じましょう。一緒にがんばりましょう！」とのエールが送られました。

八代さんは今後、コンサートなどで全国を巡る中で、箱根の魅力をPRしていきたいということです。

八代亜紀さん
熊本県八代市出身。1971年デビュー。1973年に出世作「なみだ恋」を発売後、数々のヒット曲を出し、1980年に「雨の慕情」で第22回日本レコード大賞で大賞を受賞。芸能生活40周年を迎えた2010年には、歌唱技術が認められ文化庁長官表彰を受賞。また絵画では、画家の登壇とも言われる世界最古の美術展、フランスの「ル・サロン」で5年連続入選を果たし永久会員に。強羅地区に20年以上アトリエを構え、創作活動を行っている。出身地では「八代よかとこ大使」や「くまもと誘友大使」を務めている。



なお、11月19日に小田原市民会館で開催されたチャリティイベント「八代亜紀 小田原箱根スペシャルコンサート」から、収益の一部が町に寄付される予定です。